



8 高等教育機関合同公開講座 函館学 2007

PM2:00~3:30

9/15 土

函館の宗教アラカルト

函館大谷短期大学 学長 福島憲成

会場 東本願寺函館別院



主催 函館市高等教育機関連携推進協議会 函館市

後援 函館商工会議所

福島憲成 (ふくしま のりしげ)

函館大谷短期大学教授 学長
真宗大谷派僧侶・児童劇作家

- 1947年 北海道生まれ
- 1972年 大谷大学大学院（真宗学専攻）修士課程修了

- 1972年 京都光華女子学園光華高等学校教諭
- 1980年 「光る影絵」の新手法を考案し。
京都・大阪を中心に、アメリカ/中国/韓国などでの海外
公演を含め、約900回の公演活動を行い、
「国際ソロプチミスト青年市民賞」
「京都府知事賞」などを受賞。
- 1989年 朝日新聞『論壇』「安易過ぎるサンボ絶版」で、
国内外に論議を捲き起こす。
- 1996年 光華女子学園を退職し、自坊に戻る。
- 1997年 朝日新聞『論壇』に「ドラえもの大切なメッセージ」
掲載。
- 1999年 函館大谷女子短大助教授
フレーベル館発行の『保育専科』に「光で遊ぼう！ザ・
ブラックシアター」など連載。
- 2001年 函館大谷短期大学教授 副学長・附属幼稚園園長
- 2003年 函館大谷短期大学 学長

函館の歴史年表

| 時代 | 西暦 | 年号 | 函館の歴史 | 関連事項 | 日本の歴史 |
|----|--|--|---|--|---|
| 鎌倉 | 1200～ 1205～ 1216 1235 1293 | 元久二年 建保四年 嘉禎元年 永仁 | <p>漁師、漂流者などにより、和人の定住がおこる。</p> <p>幕府、強盗海賊の類五〇余人を蝦夷島に流す。 『吾妻鏡』</p> <p><u>日持(日蓮の高弟)、来道</u>か 日蓮の高弟の一人日持が石崎に庵を結んだという説がある。 ※昔、悪人に殺された母子が大きな石の下に埋められ、毎晩泣き声が聞こえたので、日持上人が「南無妙法蓮華經」と彫って供養したら、それから泣き声がやんだという伝説の鶏冠石(実行寺) ※日持が大陸に出發「渡唐法華」(中国に渡って法華經を広めた)した場所が村名の由来ともなったという渡唐法華 日持上人ゆかりのお寺 〈檜山郡〉法華寺 〈松前郡〉法華寺 〈函館市〉実行寺 〈函館市〉妙應寺 〈函館市〉妙頭寺</p> | <p>安東秀信=[エゾ]管領(東夷守護)となり、渡島を支配]</p> <p>荒木大学、知内に「真藤寺」を建てる。[大野土佐日記]</p> | <p>北条義時=執権となる 実朝、暗殺される。 承久の乱 [後鳥羽上皇、義時追討の院宣を下す]</p> <p>親鸞、浄土真宗を広める。 北条政子死去 道元、曹洞宗を伝う。 貞永式目制定 日蓮、日蓮宗を広める。</p> <p>文永・弘安の役(蒙古來襲)</p> |
| 室町 | 1336～ 1367 1390 | 明德元年 | <p><u>[貞時六年]の板碑</u>(称名寺) 阿弥陀仏と念仏信者の像が刻まれている。 (浄土教の渡道)</p> <p><u>(亀田八幡宮)</u> 河野加賀守泰幸が越前敦賀(福井県)の氣比神宮から、祭神の八幡大神(応神天皇)を勧請した 戊辰戦争では、明治2年5月17日幕軍榎本武揚・大鳥圭介等が当宮神殿で黒田清隆らと降伏を誓約。 箱館戦争時には官軍本陣となり銃弾の跡が神輿殿に残っている。</p> | | <p>《南北朝の対立》 足利尊氏、光明天皇を擁立 建武式目を制定する。 後醍醐天皇、吉野へ移る。</p> |
| | 1429～41 | | <p><u>(石崎八幡社)</u> 平氏盛阿彌、深く八幡神社の御祭神を尊信し祭祀を執行 永享11年3月に同氏の奉納した鰐口1振を蔵している</p> <p><u>神明社</u>(現山上大神宮) 室町期に修験者が伊勢神宮の御霊を亀田赤川村に分祀</p> | | |
| | | | <p>[道南に安東氏の十二館が存在] 函館には志濃里・箱館の二館があった</p> | <p>南部氏、安東氏を攻め、十三湊を攻略</p> | |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| 1443 1445 | 嘉吉三年 文安二年 | 安東盛季=エゾ地へ渡る。[武田信広、政繁と共に渡道か] 河野政通 館の守護神として「八幡神」を祀る 安東氏に従って渡来した河野政通は当時「宇須岸」と呼ばれていたこの地に「宇須岸河野館」を築く。大きさは、市立函館病院から元町公園に至る、東西92m、南北115m、四方に土塁を築き、乾壕をめぐらしていたといわれる。遠くから見ると箱に似ていたことから、「箱館」と呼ばれるようになり、地名発祥の基となった。 | 1441 上ノ国寺建立か 1443 泊村に観音寺建立 阿吽寺 十三湊から大館へ移る | 嘉吉の土一揆起こる。 |
| 1456 1457 1469 1490 1494 1496 | 長禄元年 文明元年 延徳二年 明応三年 明応五年 | 亀田鍛冶村の鍛冶屋蝦夷の子を殺す 《コシャマインの乱》 [安東氏十二館は花沢・茂別を残して落城] (函館、当分の間歴史より消える)) | 松前藩初代 武田(蛸崎) 信広 武田信広コシャマイン父子を倒す 若狭の僧随芳奥尻に草庵を結ぶ。 松前山法源寺 と号す ※ [山門は道内最古の建造物として道有形文化財] 二代 蛸崎光広 (蝦夷地の実質的支配権確保) | 太田道灌、江戸城を築く。 1467 応仁の乱起こる。 1471 蓮如、吉崎に道場建設 1485 山城で国一揆・1488加賀で一向一揆 1489 銀閣寺上棟(7年後完成) 1495 宗祇、『新撰苑玖波集』を編む 蓮如、石山に本願寺を築く。 竜安寺石庭完成 |
| 1512 1513 | 永正九年 永正十年 | 安東氏地代官として諸国からの商船・旅客からの税をとる。 | 1499 弘賢、上ノ国に 浄願寺を創設。 城下に妖事多く、疫痢、暴風が続く 熊野神社建立 [生け贄にアイヌの娘たちを矢越岬に沈める] 阿吽寺焼失 「法源寺・法懂寺残る」の記事 [福山日記] 法懂寺は一時廃絶 | |
| 1515 1516 1520 1521 1527 1529 1533 1536 1538 1541 | 永正十二年 永正十三年 文亀二年 大永元年 大永七年 享禄二年 天文二年 天文五年 天文七年 天文十年 | 《東部アイヌ徳山館襲撃》 光広、酋長シヨヤコウシ兄弟を討つ。 西部アイヌ、瀬棚の酋長タナサカシ上ノ国館を襲う。 西部アイヌ酋長タリコナ(外サカの蝦夷)夫婦で徳山館襲来。義広、計略にて酋長夫婦を殺す。 | 浄願寺蝦夷島を撤退か? 弁財天堂 光広、夢の告げにより弁財天を弁天島にまつる。 法源寺住職随芳を別当とする 八幡宮、大館にまつられ、八幡大菩薩と称す 永善坊(後の阿吽寺末寺福寿山慈眼寺)建立 松前法華寺建立。 ※ [正応四年日持上人が上ノ国に建立、後福山に移すとも、享禄二年本満寺の僧日尋が上ノ国に法華堂を建て、後に福山に移すともいう] 江差、法華寺建立 蛸崎義広、阿吽寺を再興、祈願所とする 浄土真宗専念寺建立。 真宗の僧、真徳蛸崎季広に招かれて創立 義広、勝軍地藏堂を建立 羽黒宮創立 | この頃から寺院の檀家制度行われる。 天竺人、周防に来着 [眼鏡・望遠鏡を伝える] 1541 武田信玄、自立する |

| | | | | | |
|------------|--------------|------------|---------------|--|--|
| | 1545 | 天文十四年 | | 季広、 <u>法懂寺を再興</u> し、父の菩提所とする | 1542 今川、織田と戦う。 |
| | 1548 | 天文十七年 | | <u>愛宕山権現堂</u> を大館の西に創建 | 1549 ザビエル鹿兒島に来る |
| | 1567 | 永禄十年 | | 商人淡路屋丹下、 <u>正行寺を建立</u> | 1553 川中島の戦い 1560 桶狭の戦い |
| | 1575 | 天正三年 | | <u>高德山高山寺建立</u> | 1568 長崎に教会堂建立 1571 信長、比叡山を焼打 1573 室町幕府滅亡 |
| | 1582 | 天正十年 | | | 1576 安土城なる 1577 利久、茶会を催す |
| | 1590 | 天正十八年 | | 慶広、聚楽第で秀吉に謁し、蝦夷島の支配権を認められる。 | 1582 本能寺の変 ローマに少年使節派遣 山崎の戦い 太閤検地始まる。 |
| | 1592 | 文禄元年 | | | 1583 大阪城なる 1585 秀吉、関白となる。 方広寺建立し、本願寺復興を援助する 1587 キリシタン禁止令 |
| | 1593 | 文禄二年 | | 正月 慶広、九州の秀吉の陣中に見舞い、朱印の制書及び、津軽から大阪に至る公通の許可を賜うとともに、志摩の守に任じられる。 | 1591 利久自殺 1592 文禄の役 [秀吉、朝鮮へ出兵] |
| | 1600 | 慶長五年 | | | 1594 伏見城完成 1598 秀吉死去 1600 関が原の戦い |
| | 1602 | 慶長七年 | | 高山寺、 <u>光善寺と改称</u> [京都百万遍忍教寺の末寺] | 1602 家康、東本願寺創建 1603 家康、征夷大將軍 |
| 1603 江戸 | 1604 | 慶長九年 | | 慶広、江戸に参勤し、家康より黒印の制書を受け、 専念寺本尊を東本願寺教如上人に請い受ける。 | 1603 家康、征夷大將軍 1604 出雲阿国、京にて歌舞伎踊りを始める |
| | 1613 | | このころ、キリスト教渡る？ | 千軒岳に金山発見。金福夫の来道多くなる。 医師コンスタンツ金敏のキリシタンを見舞う | 1609 豊臣秀頼、方広寺再興 1612 キリシタン弾圧開始 1614 大阪冬の陣 キリシタン追放 [マニラ・津軽へ追放する] 1615 大阪夏の陣 秀頼自害 |
| | 1618 1620 | 元和四年 六年 | | ジェロニモ・デ・アンジェリス来通 ディオゴ・カルワリョ布教のため来道 | 1620 桂離宮完成 |
| | 1625 | 寛永二年 | | 龍雲院建立。 ※[現、国の重要文化財本堂・庫裏・山門は文政十三年(1830)の修理のまま] | 1624 東照宮陽明門完成 1625 寛永寺創建 |
| | 1630 | 寛永七年 | | この頃から近江商人活躍 | |

| | | | | | |
|------|-------|--|--|--|--|
| | | | | | |
| 1633 | 寛永十年 | <u>函館最古の寺院高育寺建立</u> | | | 1633 鎖国令 1635 武家諸法度改定 [参勤交代制はじまる] 1637 島原の乱 |
| 1639 | 寛永六十年 | | | キリシタンを逮捕、処刑 [大沢、千軒、石崎で百六人が斬首。] | |
| 1644 | 正保元年 | <u>称名寺建立</u> | | | |
| 1652 | 承応元年 | | | 高広、徳山神宮を造営 [松前一の宮として栄え、現在拝殿は道指定文化財] | |
| 1653 | 承応二年 | | | 江差順正寺創立 | |
| 1669 | 寛文九年 | シャクシャインの戦い起こる | | | |
| 1670 | 寛文十年 | 「津軽一統誌」に <u>弁財天（現巖島神社）</u> の記述 (明治25年(1892)に現在の巖島神社と改称) | | | |
| 1672 | | | | 蝦夷地と大坂を直行する西 回り航路が開設 | |
| 1674 | | 北前船での交易が盛んになる | | | |
| 1678 | 延宝六年 | | | 江差に奉行所を設ける。 門昌庵事件起こる [法幢寺六世住職柏殿和尚、藩主矩広の愛妾と通じた と言う讒言により殺される。] | 1680 綱吉將軍となる 1682 江戸の大火[八百屋お七の火事] 1685 生類憐み令発布 |
| 1690 | 元禄三年 | <u>実行寺松前法華寺の末寺となる。</u> | | | |
| 1785 | 天明五年 | | | 最上徳内ら蝦夷地調査 1786 ロシア人、千島に来る。 | 1709 東大寺大仏殿再建。 1748 仮名手本忠臣蔵上演。 1781 天明の飢饉 |
| 1789 | 寛政元年 | クナシリにてアイヌ反乱 | | 波響、松前藩側について反乱鎮圧に一役買った アイヌの酋長たちの像を描く。波響、上京の際アイヌの 像を持参、好評を得る。[光格天皇に浄写して献上、賞詞 や文具を下賜される] | 1787 松平定信、老中筆頭と なる。 |
| 1791 | 寛政三年 | | | | |
| 1792 | 寛政四年 | | | ロシア使節ラクスマン、光太夫 を連れ、根室に来航、通商 を請う。 | |
| 1793 | 寛政五年 | ラックスマン、箱館に来航 | | | |
| 1795 | 寛政七年 | 高田屋嘉兵衛蝦夷地経営へ乗り出す。 庄内で1,700石積の辰悦丸を建造し本格的に廻船業を開始 | | | 1798 近藤重蔵エトロフ島に『大日本恵土呂府』 の標柱を建立。 |
| 1799 | 寛政十三年 | 東蝦夷、幕府の直轄となる。 高田屋嘉兵衛 エトロフ航路を開く。 | | | |
| 1800 | | 伊能忠敬、箱館山で観測 | | | |
| 1802 | | 箱館に蝦夷奉行を置く | | | |
| 1803 | 文化 元年 | | | 厚岸 国泰寺創設 | |
| 1804 | 文化 二年 | | | 有珠 善光寺創設 | |
| 1806 | 文化 三年 | 箱館の大火 高田屋は被災者の救済活動と復興事業を率先して行なう | | 様似 等樹院創設 | |
| 1807 | 文化 四年 | 全蝦夷幕府の直轄となる | | 松前藩福島梁川へ移封 | |
| 1812 | 文化九年 | ゴローニン事件 ロシア軍艦の艦長。国後島で測量をしていたとき、日本(幕府)によって捕らえられ捕虜になる。 | | | |

| | | | | | |
|----|------------------------------|------------------------------|--|--|---|
| | | | | | |
| | 1813 | 文化十年 | 嘉兵衛、報復のため国後島で捕えられる。 嘉兵衛人質解放に尽力。、幕府の蝦夷御用船頭に任ぜられる。1818 没す | | |
| | 1821 | 文政四年 | 幕府蝦夷直轄を解き、松前藩復領 | | |
| | 1826 | 文政九年 | | 池大雅、江差法華寺本堂天井に「八がにらみの竜」図を描く] 波郷、没す | |
| | 1833 | 天保四年 | 高田屋没落 幕府から密貿易の疑いをかけられ全財産没収 | | |
| | 1848 1849 1850 | 嘉永元年 嘉永二年 嘉永三年 | 津軽海峡付近に外国船が多く出沒 <u>天祐寺（天台宗）草創</u> <small>奥州相馬の智秀坊広照が、歓喜天を祀ったのが創始</small> | 幕府、松前藩に築城を命ず | 1846 頼三樹三郎、松浦武四郎、江差に滞在。 |
| | 1854 | 安政元年 | ペリー函館来航（5月） <small>横浜で「日米和親条約」を締結後、5隻の艦船を引きつれて箱館に入港。</small> 幕府、箱館を外国に開港、箱館奉行を置く | 福山新城竣工 <small>〔日本最後の旧式の城となる。〕</small> | 日米和親条約（下田・箱館2港を開港） 日露和親条約（下田・箱館・長崎を開港） |
| | 1855 1857 1858 | 安政二年 安政四年 安政五年 | 高田屋の信仰した <u>不動院</u> 、南部の修験者の手で再興 五稜郭工事開始 | 法源寺・龍雲院・正覚寺蝦夷地開拓を嘆願 | 幕府、日米修好通商条約に調印 |
| | 1859 | 安政六年 | 西本願寺派願乗寺住職堀川乗経 <u>函館に一寺（後、函館西別院）</u> を建て亀田川の工事に着手。 ロシア領事館に <u>聖ハリストス正教会創立</u> 東本願寺の桔梗野開拓 <u>宝皇寺建立</u> | | |
| | 1861 | 文久元年 | フランス人宣教師 <u>カトリック教会</u> を創立 <u>天台宗清光院</u> （現真言寺） | | |
| | 1862 | 文久二年 | 豊川稻荷社（函館八幡宮の摂社）創立 | | |
| | 1863 | 文久三年 | 亀田八幡宮本殿改築（市内で最も古い木造建） | | |
| | 1864 1866 1867 1868 | 元治元年 慶応二年 慶応三年 慶応四年 | 五後郭が築城の時、鬼門守護として <u>東照大権現（現東照宮）</u> を日高様似の等樹院より遷座 <u>新島襄脱国</u> 五稜郭（亀田役所土塁）完成 | 海軍総奉行松前藩主崇広兵庫開港をする。 崇広、朝廷より、勅命をもって謹慎 崇広、正月に松前に帰り、四月に病没 | 1864 英・仏・蘭の軍艦九隻兵庫に入港し、開港を迫る。 大政奉還 戊辰戦争 鳥羽伏見の戦い |
| 明治 | 1868 | 十月 十一月 | 二十日 旧幕軍蝦夷地上陸 榎本武揚の率いる2000余名の軍勢、鷲ノ木に上陸 二十七日 土方軍松前を攻撃。 <small>土方歳三を指揮者とする700名の軍勢松前に進撃</small> 五日 <u>藩兵、城下町に火を放つ。</u> | | 9月 会津藩降伏 王政復古宣言 |

| | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|---|--|--|
| 1869 | 十二月 明治二年 | <p>[4000戸の城下街の4分の3が灰燼と化す] 十四日榎本武揚、「開陽」で松前入港。 十五日榎本軍、江差占領 「開陽」風雪のため座礁 榎本政権樹立（蝦夷共和国） 五月 土方戦死 六月 五稜郭陥落 榎本武揚官軍に投降</p> <p>九月 現如北海道視察 函館招魂社創建（現函館護国神社）</p> | | <p>明治政府札幌本府を決定 北海道開拓使開設 東本願寺道路建設を申し出る。 廃藩置県</p> |
| 1870 1872 | 明治三年 明治四年 明治六年 | <p>北海道開拓使・函館が本庁となる 函館は北海道開拓使出張所となる</p> | <p>東北・北陸からの300戸 ＝札幌に入植 札幌開拓使庁開設</p> <p>福山・江差漁民隆起騒動</p> | <p>現如、道路の開削を行う。 開拓使「税制改革」</p> |
| 1874 1875 1876 1877 1878 | 明治七年 明治八年 明治九年 明治十年 明治十一年 | <p>M・C・ハリス宣教師の伝道</p> <p>イギリス人ジョン・パチュラー伝道師来函 （アイヌ伝道） 公立学校住吉・亀田学校設立</p> | <p>札幌農学校開設 クラーク着任 （キリスト教布教） 琴似・山鼻の屯田中隊九州 遠征</p> | <p>黒田清隆三代開拓長官 屯田兵制度 樺太・千島交換条約締結 （領土問題解消） 西南戦争</p> |
| 1879 1880 | 明治十二年 明治十三年 | <p>「五島軒」開業 函館戸数6,160戸・人口33,864人</p> | | |
| 1882 1886 1888 | 明治十五年 明治十九年 明治二十一年 | <p>ハリス宣教師夫人による働きかけで女学校が 開設。（現在の遺愛女子中学・高等学校）</p> <p>聖保祿女学校開校（現白百合高校 勲は1878から）</p> <p>六和女学校開校（現大谷学園）</p> | | |
| 1891 1896 1871 | 明治二十四年 明治二十六年 明治三十一年 | <p>カトリック函館教区発足A.ベルリオーズ初代 司教に任命 灯台の聖母修道院開院</p> <p>トラピスチヌ修道院設立 フランス・シトー修養会の女子修道院 正式名を「厳律シトー会天使の聖母トラピス チヌ修道院」</p> | | |



世界中の宗教が私の家を中心に 集まっていた 亀井勝一郎



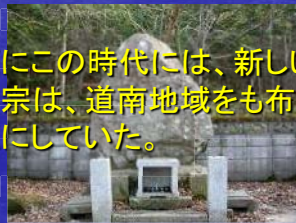
函館の国際的魅力

- 元町付近には函館山の麓に張り付くように、他にも、実行寺、称名寺、高龍寺など歴史的な名刹があり、八幡社、護国神社など古い歴史を持つ神社もある。まさに、宗教の博物館地域でもある。
- これらが函館の国際的魅力を支えている

日蓮の高弟 日持の蝦夷島布教



- 日蓮の六人の高弟の一人である日持上人は、「みちのく」布教の後、函館へ渡ったという。
- 既にこの時代には、新しい仏教各宗は、道南地域をも布教の対象にしていた。



南北朝・室町時代のころ

- 貞治六年(1367)の板碑(称名寺)
- 浄土教の渡道
- 明德元年(1396)八幡社の勧請
- 石崎八幡社の鰐口
- 赤川に神明社勧請

上ノ国に北海道最古の寺 上ノ国寺(真言宗)創建



津軽管領安東氏の渡島

- 南部氏、安東氏を攻め、十三湊を攻略。安東氏は蝦夷に逃げる。



十三湖



松前沖口役所前 旧松前港より津軽半島を望む。

安東氏の菩提寺「阿吽寺」(真言宗)の創建。



阿吽寺は以後も松前に残り、松前藩の祈願寺院としてお城の鬼門に移築され、現在に至っている。

室町幕府

足利尊氏



足利義満

足利氏が京都に開いた武家政権。1338年から1573年までの約240年間つづいた。

金閣寺



政治の混乱をよどに、人々は新しい文化世界を築きあげていく。

銀閣寺



戦国時代

- 室町時代中期, 応仁の乱以後, 幕府の権威は弱くなる。
- 第15代将軍義昭が織田信長に京都を追われて幕府は滅亡、戦国時代へと突入。

浄土真宗蓮如の登場

- 15世紀(1499)が出現。新たな義を受け入れられた。
- 平易な「講」といって、同朋・同門を結成し、新たな救いを実現した。
- これまでの価値観・世界観と対立、衝突する反権力組織として力を持つ。



蓮如

各宗は北方布教に力を入れる

- 各宗派の教えは、宗祖の門弟を通して北の地方へと伝播をしていた。
- **浄土宗** 法然の「みちのく」伝道の命を受け、金光上人が北へ向かった。
- **浄土真宗** 親鸞の門弟の東国出身者、如信・唯信らが「みちのく」弘通を行う。
- **曹洞宗** も **時宗** も、すでに「みちのく」へ足を伸ばしていた。

曹洞宗松前法源寺



山門は創建当時のもので、国の重要文化財となっている。

下克上の時代

- 下克上が頻発し、荘園公領制が消滅し、土地と人民は戦国大名の支配下におかれた。
- 戦乱が続く時代だったが内外の通商は盛んで、農業・工業ともに技術が向上した。



各地で土一揆起こる

- 室町時代における商工業の発達、貨幣経済の発展は商工業者を成長させ、農民も荘園の崩壊で独立的地位をえて村の自治組織を結成し、しばしば**土一揆**をおこした。

一向一揆・法華一揆などに発展

進まば往生極楽、退かば無間地獄

一向一揆

加賀一向一揆

百年にわたり自治権を確保

越中一向一揆

上杉謙信を悩ませるほどの一揆

長島一向一揆

織田信長の弟・信興が殺され、信長が5万の軍勢でこれを討とうしたが、敗戦。名だたる武将が討ち取られた。

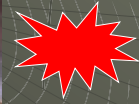
石山本願寺の戦い

- ◆ 石山本願寺は大坂(現大阪城本丸内)にあった蓮如が建てた真宗の寺。



石山本願寺の戦い

- ◆ 信長は、交通の要衝である石山の地が欲しく、本願寺に対して立ち退きを要求。
- ◆ 本願寺11代顕如は諸国の一向宗徒に徹底抗戦を表明。元亀元年(1570)から天正8年(1580)まで、10年間に及ぶ石山合戦となった。



- この時期に殺された一向宗門徒は十万人を超えと言われており、それは広島・長崎に落とされた原爆の死者に匹敵するもので、日本史上における最大規模の虐殺であった

浄土真宗(一向宗) 蝦夷地に浄願寺を建立

- 蓮如の弟子弘賢は、一向宗(浄土真宗)の北方開教の命を受け、上ノ国に浄願寺を建立するが、倭人とアイヌの度重なる戦いに布教を断念、秋田へ撤退する。

日蓮宗 松前・江差に法華寺を建立

- 松前法華寺



江差法華寺



- 江戸中期の文人画(南画)の大成者、池大雅の描いた「八方睨みの龍」の天井画が有名



浄土真宗専念寺建立



- 天文二年(1533)開基は蓮如の曾孫真徳。松前五代慶広の時、東本願寺に付き、以後、真宗の蝦夷地布教を独占した。

曹洞宗 法幢寺再興



- 四代季広父の菩提を弔うため法幢寺を再興。
- 以後、松前氏の菩提寺となる。

安土桃山時代

- 織田信長の仏教弾圧
比叡山焼き討ち・一向一揆との戦い

↑
↓
キリスト教の保護

イエズス会のザビエル日本各地でキリスト教を広める

フランシスコ・ザビエル



1534年7月22日パリの小さな聖堂で、4人の若者と共に清貧と貞節の初誓願をたて、これが、イエズス会の出発点となった。

ザビエルの日本布教

- 1549年8月15日、ザビエルは鹿児島へ上陸。薩摩藩主の島津貴久に宣教の許可を求めた。
- ポルトガルとの貿易を望んでいた貴久は、快く許可を与え、およそ1年鹿児島に滞在。
(この1年の間に、100人が洗礼を受け信徒となる)



当時の世界

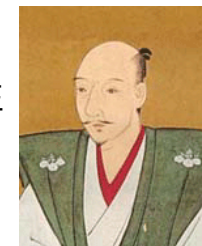


キリスト教布教の目的

- ザビエルが乗った船は、奴隷売買、胡椒貿易、金銀などを目的とする商業船であった。
- 当時の日本は金の産出量が比較的多く、彼らは原住民をキリスト教に改宗させ、他方、香料や金の貿易は独占した。
- ポルトガル・スペイン両国は日本の植民地化の意図のもとに日本布教を行った。

信長の思惑

- 信長は教義がほとんど同じであるにも関わらず、仏教は弾圧しキリスト教は保護した。



- 何でも良いから仏教への対抗勢力が必要だった。
- 世界の情報も手に入れたかった。

浄土宗 (高山寺)光善寺建立

血脈桜で近年特に有名になったお寺。松前氏の奥方のお墓がある。



本能寺の変

- 信長は、1580年、ついに石山の本願寺を屈伏させることに成功。京都をおさえ、近畿・東海・北陸地方を支配下に入れて統一事業を完成しつつあったが...

- **1582年、京都の本能寺で家臣の明智光秀にそむかれて殺された。**



秀吉キリスト教を禁止

- 禁教のきっかけは、土佐に漂着したスペインの貿易船「サン・フェリペ号事件」



- 「なぜ宣教師を乗せているのか」の問に、「まず、宣教師をその土地に派遣し住民を懐柔し、次に軍隊を送りその地を占領する」と答えた。
- 驚いた秀吉は即刻キリスト教を禁教にした。

26聖人の殉教



長崎西坂の丘
26聖人の碑

浄土宗 正行寺建立

- 商人淡路屋丹下、正行寺を建立。



江戸時代

キリスト教徒の大弾圧

- 家康は幕藩体制の思想的基盤を**儒教**とする一方、**キリスト教徒の大弾圧**を行う。



慶広、蝦夷の支配権を確立

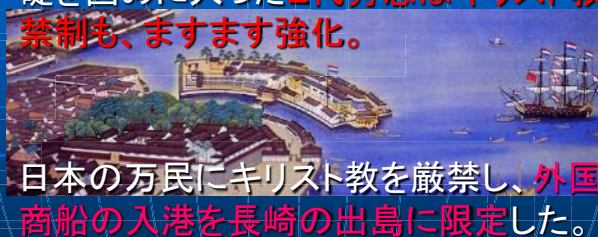
- 松前五代藩主慶広 江戸に参勤し、家康より黒印の制書を受ける。これにより、**蝦夷島全島の支配権を確保し、蝦夷島主の地位に着く。**



松前慶広像(阿叶寺蔵)

「伴天連宗門御制禁奉書」

- 1616年、家康が死去し、幕藩体制の基礎を固めに入った2代秀忠は**キリスト教禁制も、ますます強化。**



日本の万民にキリスト教を厳禁し、**外国商船の入港を長崎の出島に限定した。**

鎖国令

家康の宗教政策

- **仏教を保護し(利用し)キリシタンの摘発と戸籍管理のため檀家制度の徹底を図る。**

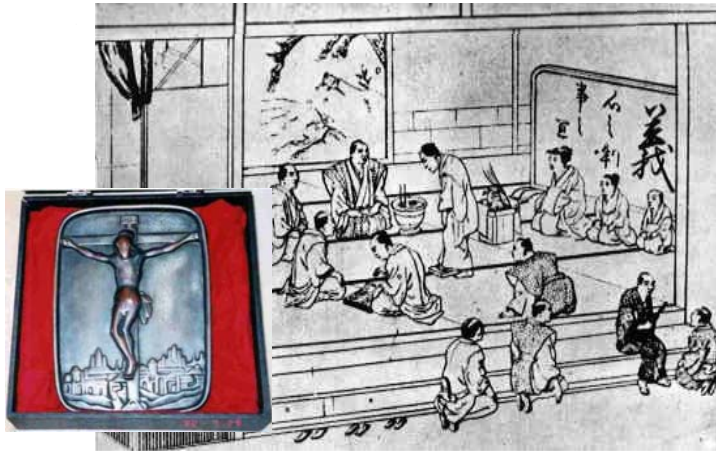


一向宗を東・西本願寺に分断

寺を通じて民衆を支配。

寺参り・先祖の年忌法要・葬礼が民衆の中に定着

一キリシタンの弾圧一



隠れキリシタン



函館最古の寺院 曹洞宗高龍寺



松前法源寺を本寺として創建される。

天草四郎の殉教 一島原の乱一

- 総大将に四郎時貞が担ぎ出され、老若男女26800人が原城に立てこもり、12万の幕府軍と戦い、皆殺しとなった。



蝦夷での殉教

- 3万~5万人の砂金掘りの中にキリシタンが潜み住む。



(1639年)、金山のキリシタンが大量処刑された。
大沢金山では50人、石崎では6人、千軒金山では50人。

浄土宗称名寺

松前光善寺を本寺として創建される。



戊辰戦争の時には新撰組
残党の屯所となった。

江差東別院順正寺



近世に建立された寺院

前期

| | |
|--------|------|
| ■ 真言宗 | 4 寺 |
| ■ 曹洞宗 | 20 寺 |
| ■ 浄土宗 | 23 寺 |
| ■ 浄土真宗 | 12 寺 |
| ■ 日蓮宗 | 3 寺 |
| ■ 黄檗宗 | 1 寺 |

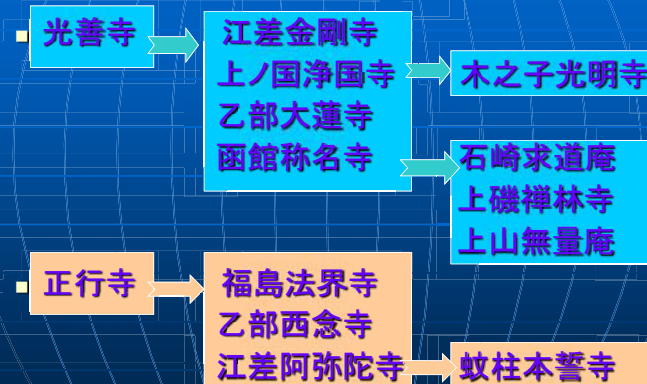
後期

| | |
|--------|------|
| ■ 真言宗 | 1 寺 |
| ■ 曹洞宗 | 22 寺 |
| ■ 浄土宗 | 17 寺 |
| ■ 浄土真宗 | 19 寺 |
| ■ 日蓮宗 | 7 寺 |
| ■ 天台宗 | 3 寺 |

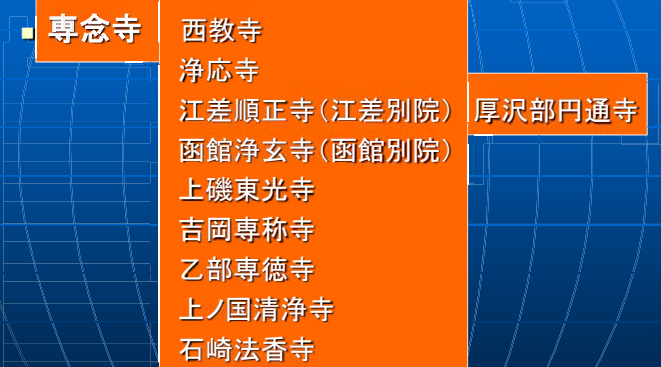
禅宗



浄土宗



浄土真宗(東本願寺派)



北前船の交易盛んになる



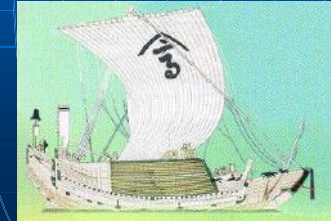
高田屋嘉兵衛の活躍

当時最大級の千五百石積の船「辰悦丸(しんえつまる)」を建造。
まだ寂しい漁村にすぎなかった函館を商売の拠点とする。



嘉兵衛とエトロフ航路

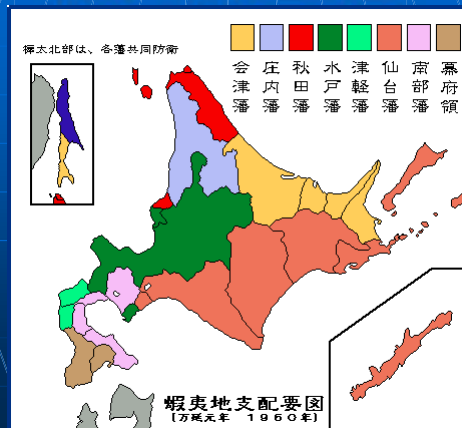
- 当時千島列島を南下してくるロシアとの国防対策を急ぐ幕府に協力して、エトロフ島とクナシリ島間の航路を開発したり、新たな漁場を開くなど、北方の開拓者として活躍。



クナシリでアイヌ反乱



幕府の蝦夷全島直轄



幕府の蝦夷三官寺造立

- 文化元年 厚岸 国泰寺 (鎌倉五山派)
- 文化二年 有珠 善光寺 (浄土宗)
- 文化三年 様似 等樹院 (天台宗)



近世後期の寺院建立 —松前から函館へ—

曹洞宗

| | |
|-----|------|
| 高龍寺 | 7 寺 |
| 法幢寺 | 3 寺 |
| 法源寺 | 3 寺 |
| 正覚院 | 3 寺 |
| 善光寺 | 13 寺 |
| 称名寺 | 3 寺 |

真宗

| | |
|------|-----|
| 浄玄寺 | 9 寺 |
| 専念寺 | 2 寺 |
| 智恵光寺 | 2 寺 |

日蓮宗

| | |
|-----|-----|
| 実行寺 | 5 寺 |
| 法華寺 | 1 寺 |

ディアナ号艦長ゴローニンを幽閉した 蝦夷一の宮徳山大神宮



嘉兵衛 ゴローニン解放に尽力



北方の守りのため松前城築城



松前十七代藩主崇広

- 幕府の老中格に抜擢され、海軍総奉行となり、長州征伐などで活躍。勅許を得ずに兵庫開港を決め朝廷より謹慎を命ぜられ、失意の内に病没。



ペリー来航



函館の町並み。



遠征記には浄玄寺の記事がある

函館の寺院。



西本願寺の蝦夷進出



- 青森願乗寺の堀川乗経、函館に一寺を建立
- 西本願寺進出の足がかりをつける。



明治初期の西別院

キリスト教

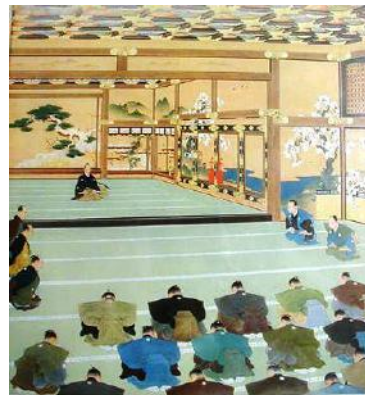
1861.
カトリック教会



1859. 聖ハリストス正教会



大政奉還



書斎の徳川慶喜

函館戦争



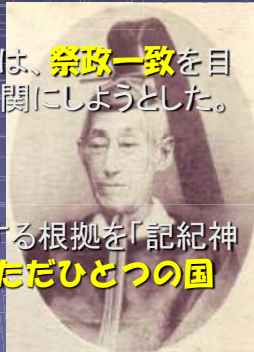
西軍の幕府に対する措置を不満とし、慶応4年(1868年)8月19日、榎本武揚を中心とした幕府軍2000名が、「開陽丸」を旗艦とする幕府艦隊8隻で江戸を脱出。10月20日に鷲の木(森町)へ上陸した。



明治政府 国家神道への大転換

王政復古をもとに明治政府は、**祭政一致**を目指し、神社を国家統合の機関にしようとした。

天皇の政治支配を正当化する根拠を「**記紀神話**」に求め、**神道だけが、ただひとつの国教として正当化**した。



総裁 有栖川宮

《明治政府が急ぐ近代化への道》

■ 古い国家体制の一掃のため、ヨーロッパ文化を導入し新国家の成立を急ぐ。

■ 西欧の列国に対抗するための国策として

神道を**国家宗教**とした。



靖国神社の創建



明治2年6月29日(1869年8月6日)に戊辰戦争での朝廷方戦死者を慰霊するため、**東京招魂社**として創建された。

1879年に「靖国神社」に改称。同時に**別格官幣社**となり、**国家神道の象徴**とされた。

廃仏毀釈起こる

明治政府「神仏分離令」を交付。

全国に**廃仏毀釈の嵐**が巻き起こる。

日本の文化大革命？



北海道の開拓

■ 新政府は1869年に開拓使を設置、北海道開拓を推進することとなった。

■ 開拓使本庁の設置先として札幌が選定されたため、函館から札幌までの道路の開削が急務となった。



東本願寺道路の開削



- 新政府は1869年に開拓使を設置、北海道開拓を推進することとなった。
- 開拓使本庁の設置先として札幌が選定されたため、函館から札幌までの道路の開削が急務となった。
- 東本願寺ではこの要請を受け、開削と布教を掲げて、開削を願い出た。

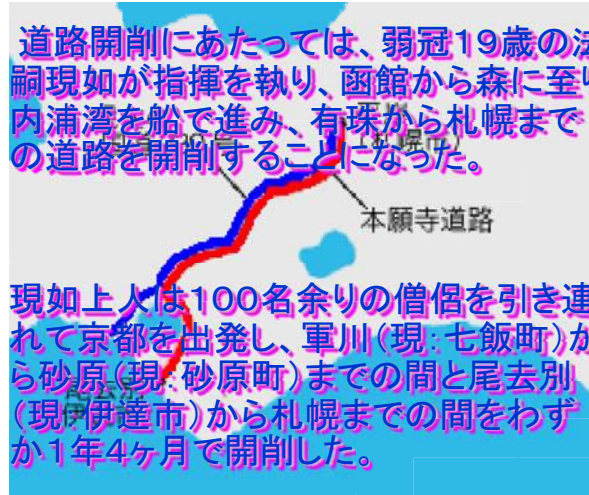
浄願寺(函館東別院) 北海道布教の拠点となる

東本願寺は専念寺より
浄玄寺を無期限で借り
受け、真宗北海道開教の
拠点とする。



- 道路開削にあたっては、弱冠19歳の法嗣現如が指揮を執り、函館から森に至り、内浦湾を船で進み、有珠から札幌までの道路を開削することになった。

- 現如上人は100名余りの僧侶を引き連れて京都を出発し、軍川(現:七飯町)から砂原(現:砂原町)までの間と尾去別(現伊達市)から札幌までの間をわずか1年4ヶ月で開削した。



開拓団の入植



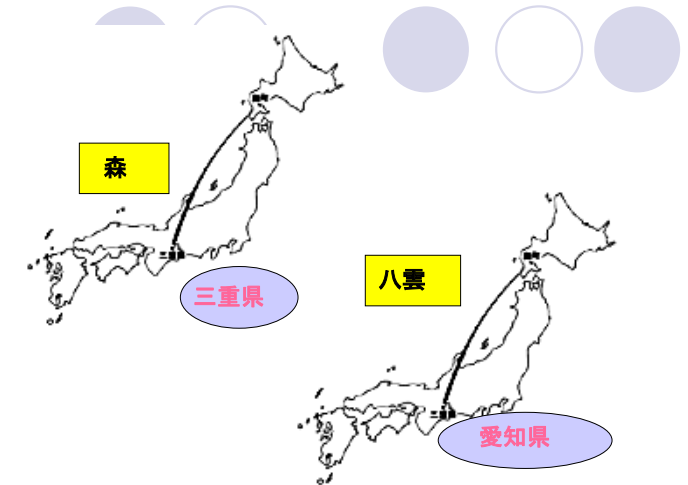
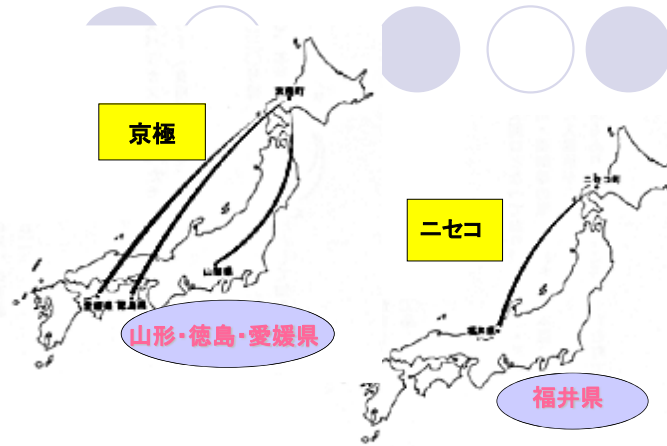
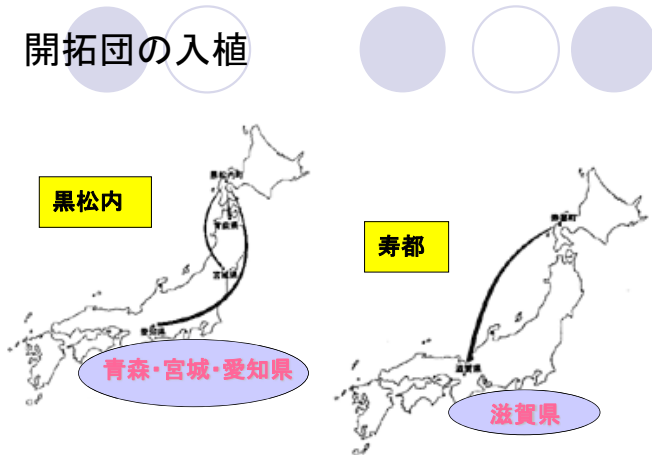
屯田兵屋

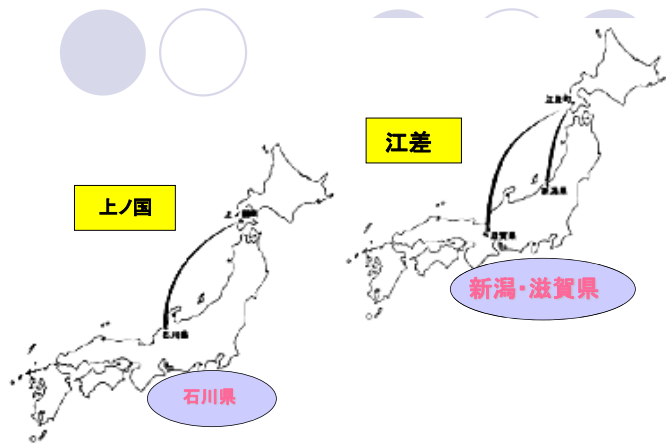
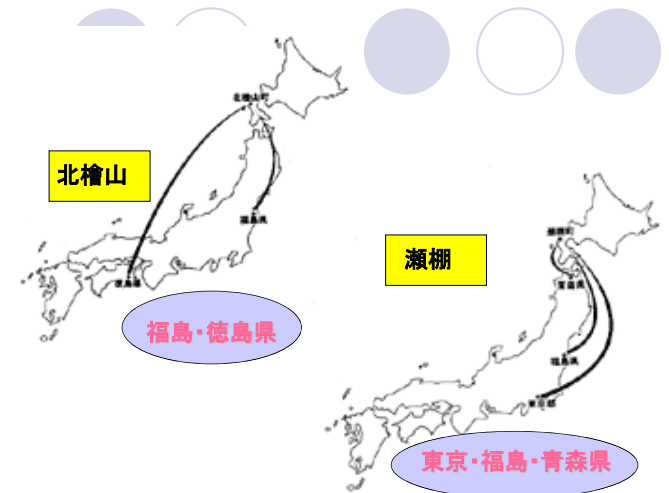
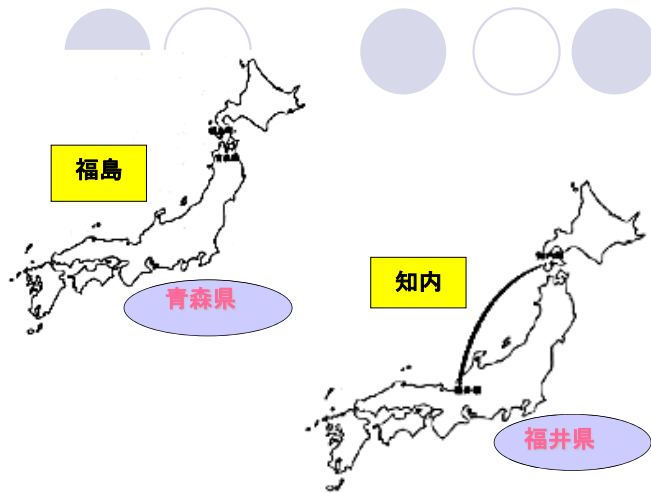
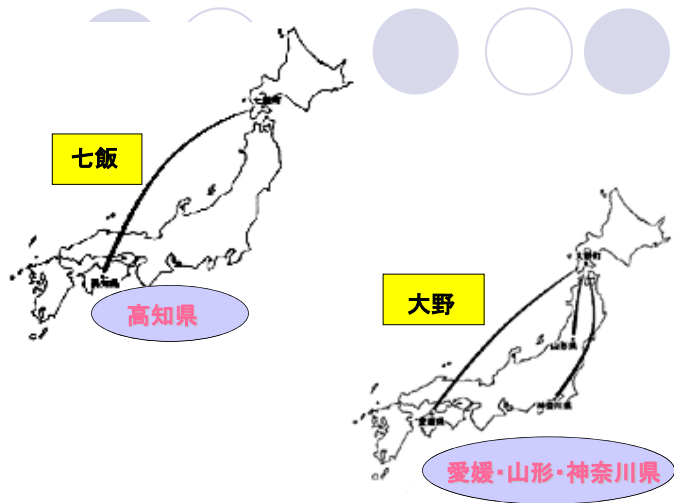


仙台藩亙理2万3千石領主
伊達邦成は家臣2,600人
を移住させた。



開拓団の入植





開拓団と共にあった寺院

北海道の仏教寺院は、すでに移住し定住に成功した開拓者集団に招かれ、あるいは共に開墾に従事して、やがて寺院を建立している例が多い。

生死をかけた新しい「生活」の場の開拓と共に、常に宗教・寺院はあった。

トラピスチヌ
女子修道院



トラピスト
男子修道院



ミッションスクール開校

白百合女子高等学校



遺愛女子高等学校



仏教の近代化

◆ 仏教は近代社会のなかに生き残りをかけて、近代化を模索



清沢満之



井上円了

◆ キリスト教の活動にも刺激され、宗門教育機関の設置に乗り出す

宗門系大学の設置

大谷大学・龍谷大学・仏教大学・花園大学・京都女子大学など



関東の仏教系大学

・東洋大学・立正大学・駒沢大学・大正大学など



駒沢大学



大正大学



立正大学

函館仏教会の動き

◆ 市内六仏教寺院が新しい時代の教育を目指し、函館大谷の前身六和女子学園を創立。





国分寺の建立

• 《天平[平城]》

聖武天皇 741

東大寺を中心に
各地に国分寺を建立し、
国家宗教(仏教)の徹底
をはかる。

南都六宗

法相宗 三論宗 俱舎宗
成実宗 華嚴宗 律宗



平安仏教

《平安》
遣唐使として渡唐した



最澄と空海

新しい仏教
《平安仏教》を導入

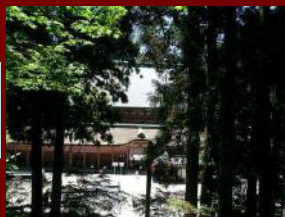


■伝教大師最澄



法華經を中心と
する総合仏教

天台宗



■弘法大師空海



真言(呪文)によ
る、加持・祈祷の
秘密仏教

真言宗(密教)



国家の仏教から民衆の仏教へ

平安王朝の衰退とともに
末法思想が流行



末法思想 (三時説)

正法の時代—(釈迦滅後の1000年)
釈迦の教えが正しく行われる

像法の時代—(その後の1000年)
教・行があるが証果が得られなくなる

末法の時代—(さらにその後の1万年)
教えはあるが、行も証もなくなる

末法の世の到来

- 末法思想は仏教界のみならず一般思想界にも深刻な影響を与えた。



阿弥陀信仰



- 阿弥陀の浄土をうつした宇治平等院の鳳凰堂



浄瑠璃寺の九体の阿弥陀像



時代の混乱の中
鎌倉幕府が成立



3代将軍実朝

2代将軍頼家

鎌倉仏教の背景

- 社会の大変動



貴族に代わって武士が台頭。

土地制度が崩壊。

国家的仏教の無力化

- 民衆は新しい価値観、新しい人生観、世界観を求める真只中で、鎌倉幕府が開かれ、仏教も新しい時代をむかえる。

浄土宗

- 天台宗から

源信

法然

親鸞

浄土宗=念仏往生

念仏によって阿弥陀の浄土に生まれる



日蓮宗

天台宗から

日蓮

日蓮宗＝現世救済＝外的
(仏教による世直し)

「念仏無間・禅天魔・真言亡国・律国賊」と、
他宗を徹底的に批判。



中国から禅宗

中国で盛んに行われて
いた禅宗が

栄西(臨済宗)や
道元(曹洞宗)

によって日本に輸入
される。



鎌倉仏教の特徴

—国家の仏教から庶民の仏教へ—

- 1、一筋の信仰
- 2、貴賤・富貴・男女の差別無し
- 3、在家成仏の民衆宗教
- 4、新しい時代の仏教

鎌倉仏教の祖師

- 鎌倉仏教の祖師たちはそういう時代の中に生まれ、新しい時代に生きる方向を人々に明確に提示した人たちである。



鎌倉期の旧仏教

旧仏教もイメージチェンジを図り、
観音信仰や
地藏信仰などを
宣伝し、あるい
は八十八ヶ所霊
場めぐりなどを考
え、民衆の仏教に
再生しようとした。



時代の混乱
鎌倉幕府の衰退



北条時政

● 執権北条家実権を握る



尼將軍北条政子



蒙古襲来

時代の混乱 蒙古襲来



フビライ・ハン

- 文永11年(1274)10月3日、元軍は、蒙古人・中国人など約2万人、高麗軍8千人と、舵取り、水手など6千700人を加え、合計900艘の遠征軍で対馬・壱岐を侵攻し、10月19日、博多湾に進入、翌日上陸を開始した。

蒙古襲来



一向一揆の強さ

- 「百姓」と言っても、一向宗を信じる土豪・武将も混じる。半農の武士たるものが主力だった。
- 農民はその地に「根付いた」集団で、団結力も高い。
- 「死ねば極楽に逝ける。退けば無限地獄に落ちる」と信じていた彼らにとって、「死」は決して嫌な物では無く、まさしく「しにもものぐるい」で戦った。

数も多い民衆層が主体で、しかも信教のために「いのちがけ」で戦うので「強い」。

「キリシタン禁教令」

- 天正13年(1585年)頃には、全国のキリシタン宗徒は70万人に達していた。
- 慶長18年(1613年)キリシタン宗教の禁教令が発せられ、翌年から京都を中心に宗徒の迫害が行われる。

開拓団と共にあった寺院

北海道の仏教寺院は、すでに移住し定住に成功した自派の開拓者集団に招かれ、あるいは共に開墾に従事して、やがて寺院を建立している例が多い。

生死をかけた新しい「生活」の場の開拓と共に、常に宗教・寺院はあった。

◆ 自分たちのアイデンティティを宗教にもとめ、共に励まし、支え合ってきた、北海道の人々とお寺の密接な関係。

宗教と「私たちの生活」との関係を、先人の歴史にふりかえって、あらためて見つめなおしていきたい。

**ご静聴、
ありがとうございました！**

